

中小企業地域資源  
活用促進法に基づく



ふるさと名物  
Furusato Meibutsu

島根県松江市  
が応援するふるさと名物

松江城下の歴史と文化を  
活かした城下町ツーリズム

わが市町村の  
ふるさと名物は  
これ!



松江城下の歴史と文化

また八雲が  
歩きはじめ  
観光のまち



### 島根県松江市

#### 地域の プロフィール

松江市



島根県

松江市は、中国地方の北部、山陰地方のほぼ中央、島根県の東部に位置し、人口は約20万6千人、面積は約573km<sup>2</sup>です。


松江市とその周辺は、「古事記」、「日本書紀」、「出雲国風土記」が記す出雲神話の舞台であり、神話や伝承と結びついた史跡や神社などが多数存在し、現在も地域の行事や風習と深い結びつきを持っています。

1611年には堀尾吉晴公によって松江城が築かれ、現在の市域中央部に城下町が形成されました。城下町そして交通の要衝として栄えるなかで、現在に連なる伝統的な産業、美術工芸、食文化、民間行事、祭りなどの基礎が形成されました。

特に親しみを込めて「ふまいこう不昧公」と呼ばれる松江松平藩第7代藩主松平治郷はるさとは茶道を極め、今日に至る茶の湯の文化と、おもてなしを大切にする市民性に大きな影響を与えました。現在も、京都、金沢とともに日本3大和菓子処として知られています。

ふるさと  
名物

## ◆松江城下の歴史と文化を活かした 城下町ツーリズム



城下町の歴史的風情が残る街並みや、不昧公<sup>ふまいこう</sup>が創り上げた茶の湯世界、豊かな自然の恵みと美しい景観を湛える宍道湖など、城下町松江を彩る一つひとつが、わたしたち市民が誇りと愛着をもって次世代に伝えたい宝です。

120年前に来松した小泉八雲<sup>こいずみやくも</sup>は、当時、誰もが当たり前前に思い、気づかない松江のよさを見つけ海外に紹介しました。

美しい日本の文化が息づく松江のよさを五感で感じ、心から好きになった現代の八雲がまた歩きはじめるような、城下町松江の魅力をまるごと活かした観光まちづくりをすすめます。

活用する  
地域資源

## ◆ 国宝松江城、松江城堀川など 城下町松江の趣や歴史的風情



国宝 松江城



塩見縄手



松江城を囲む堀川

松江城とその城下町が建設されたのは1607年から1611年で戦乱がいつ起こってもおかしくない時期でした。このため、城郭の構えも、城下町の構造も、戦に対応した工夫が施されていました。

現在も、<sup>ぶけやしき</sup>武家屋敷など当時のたたずまいを残す<sup>しおみなわて</sup>塩見縄手、城の周りを三重に囲む内堀・中堀・堀川など、街のあちらこちらに戦いに備えた工夫が伺える足跡が残っています。

また、現存天守12城のひとつである松江城天守は、その歴史的、建築学的価値が認められ、2015年（平成27年）に国宝に指定されました。松江市は、古代からの歴史や伝統文化・景観を大切に受け継ぎながら、現在に至っています。

活用する  
地域資源



松平不昧公



抹茶と和菓子

## ◆ 「お茶」から発展した茶懐石や茶室

松江松平藩7代藩主であった不昧公<sup>ふまいこう</sup>は、江戸時代後期の大名茶人として知られています。

藩の財政を立て直すことに力を入れる一方で、茶人としての才能も一流だった不昧公<sup>ふまいこう</sup>は、独自の茶道観を確立させ、これが「不昧流」として今に伝わっています。不昧公の茶人としての活躍が、松江の茶の湯の文化を根付かせるきっかけになりました。

不昧公<sup>ふまいこう</sup>がつくりあげた独自の「茶の湯世界」は、明々庵<sup>めいめいあん</sup>、菅田庵<sup>かんでんあん</sup>、観月庵<sup>かんげつあん</sup>などの茶室や陶芸、茶道具、お茶、和菓子、書、生け花、さらには茶懐石などの「食文化」にまでつながる裾野の広い総合文化であり、さまざまな伝統産業の発展にも波及しています。庶民の食べ物であったそばを茶懐石の一品として用いたことは、出雲そばの地位向上において当時革命的でした。いわゆる「不昧公好み<sup>ふまいこうごのみ</sup>」を遺し、それが現代にいたるまで市民の生活に息づいています。

活用する  
地域資源

## ◆ 宍道湖の豊かな自然と景観

17世紀初め、宍道湖と中海の間に松江の城下町は造成されました。古くから水運の要衝として栄え、交流・物流の拠点だったこの地。

宍道湖の湖畔から眺める夕日は素晴らしく、オレンジ色に染まった空とそれを映す湖面、浮かび上がる嫁が島のシルエット、その美しさは「水の都まつえ」の象徴とも言えます。

ラムサール条約登録湿地の指定を受ける汽水湖の宍道湖と中海。

宍道湖七珍（スズキ、モロゲエビ、ウナギ、アマサギ、シラウオ、コイ、シジミ）や中海産赤貝（サルボウガイ）など古くから水産資源が豊富で、スズキの奉書焼やアゴ野焼きなどの伝統食を育んできました。



宍道湖七珍料理

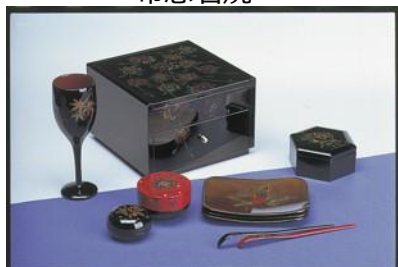


宍道湖・嫁が島と夕陽

## 活用する 地域資源



布志名焼



八雲塗り



出雲民芸紙

## ◆御用窯として発展し庶民へと広がった陶芸

「<sup>らくざんやき</sup>楽山焼」、<sup>ふしなやき</sup>「布志名焼」は、不昧公とゆかりの深い窯元で、いずれも松江藩の御用窯として重用され、今日まで茶陶の伝統を受け継いでいます。

楽山焼などで修行した後に開窯した<sup>そでしやき</sup>「袖師焼」は、民芸運動の影響から、日常的・実用的な作風を重視し、現代に即した民芸を追求し続けています。

個人作家の窯として、草分け的な存在である「火ノ川焼」をはじめ、暮らしの器を作る多数の窯元が操業しています。

## ◆不昧公好みの伝統工芸

破綻寸前の財政を立て直し、殖産に努め、豊かな藩に蘇らせた不昧公は、稀代の教養人であり、工芸美術の振興にも大きく貢献。茶道を通じた芸術文化発展の基礎を築きました。

「八雲塗り」「木工細工」「出雲めとう細工」「松江藩<sup>とう</sup>藤細工」「出雲民芸紙」など、不昧公好みの工芸品が現在も受け継がれています。

活用する  
地域資源

## ◆藩の財政再建の立役者「雲州人参」

うんしゅうにんじん

雲州人参(薬用高麗人参)の栽培は、約200年前から松江藩の財政を補う事業として始められました。生産地である松江市八束町の大根島は国内3大産地のひとつに数えられ、県内では唯一の雲州人参の産地です。

最上級品として海外市場での評価は高く、国内でも粉末やエキスに加工され滋養・強壮剤として愛用されています。



来待石

## ◆御止石「<sup>きまち</sup>来待石」と「<sup>いしどう</sup>出雲石灯ろう」

松江市宍道町の来待地区で産出する「<sup>きまち</sup>来待石」は、特産品として松江藩に認められ、藩外持ち出し禁止の「御止石」として保護されていました。

<sup>きまち</sup>来待石を加工した「<sup>いしどう</sup>出雲石灯ろう」は、その独特な技法と美的調和のとれた気品の高い優雅さから、庭園における石の美術品として人気も高く、石工品では初めて国の伝統的工芸品に指定されています。



活用する  
地域資源

## ◆松江を世界に紹介した 文豪ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）

明治時代には、文豪ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）が松江に滞在し、この地域の風情や伝統、人々の生活をこよなく愛し「知られぬ日本の面影」、「神々の国の首都」などの作品で松江を広く世界に紹介しました。

八雲が住んでいた武家屋敷は、小泉八雲旧居としてほぼ当時のまま保存されており、枯山水の小庭を心静かに眺めていると、八雲が惹かれた日本の面影を感じることができます。



ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）

小泉八雲記念館 提供



小泉八雲旧居

### 小泉八雲と古事記

小泉八雲はチェンバレンによる英訳『古事記』を読んで、日本にやってきたと言われていました。その著書からも古事記世界への並々ならぬ関心が伝わってきます。

中でも、よもつひらさか黄泉比良坂の物語は、その原始的で日本的な要素からもっとも気に入った出雲神話の一つでした。

古代出雲の習俗の片鱗が継承される当時の信仰に関心を寄せた八雲は、八重垣神社や美保神社など多くの神社を人力車で巡りました。

## 1

### ◆平成の開府元年まちづくり構想

平成25年に「平成の開府元年まちづくり構想」を策定し、20年先を見据えた松江のまちづくりビジョンを計画しました。

“この構想で目指すのは”

～ また八雲が歩きはじめるまち ～

今一度、八雲の視点に立ち返り、松江のよさや松江らしさを再発見し、それを誇りに感じながら、新たな価値を生み出します。

“この構想で新たにチャレンジするポイントは”

- 世界市場で注目を集める松江発の新製品
- 新しい息吹が吹き込まれる「松江の伝統と文化」
- 国内外の人を惹きつける松江スタイルの旅
- まちなみの統一感に古くからの自然景観が溶け込んだ都市
- 挑戦を繰り返し新たなものを生み出す人々とまち



## 2

### ふまいこう ◆ 不昧公200年祭記念事業

大名茶人として多くの足跡を残した不昧公<sup>ふまいこう</sup>が世を去って200年を迎える2018年を中心に、その遺徳を偲ぶとともに、地域に伝わる茶の湯文化の価値を再発見し、未来へと続く地域の新たな礎とする文化創造事業に、官民連携して取り組みます。



#### 記念事業の柱

##### ○ 記念茶会・記念展示事業

- ・ 松江と東京における「不昧公200年祭記念展示会」

【東京展】平成30(2018)年4月21日～6月17日 三井記念美術

【島根展】平成30(2018)年9月21日～11月4日 島根県立美術館

- ・ ミュージアム合同企画展
- ・ 東京展に連動した物産展
- ・ 不昧公200年祭記念茶会

##### ○ 茶の湯による文化・観光振興事業・茶の湯の未来創造事業

- ・ 創作和菓子コンテスト
- ・ まつえ「和のもん市」

- ・ 不昧公<sup>ふまいこう</sup>200年祭限定メニューの開発 など

##### ○ 菅田庵<sup>かんでんあん</sup>修復事業



明々庵

## 3

### ◆歴史的・伝統的景観の保存

城下町松江の風情が残る伝統美観保存区域などの歴史的景観の保全と、統一感のあるまちなみの形成を図り、国宝松江城にふさわしい魅力あるまちとなるよう市民と一体となって取り組みます。

また、まちの歴史を語る町家などの歴史的建造物の保全継承や江戸時代から残る堀割や町割を活かし、市民との共創により歴史的建造物を核としたまちづくりを進め、地域の賑わい創りや商業振興、交流人口の増加に繋げていきます。□



塩見縄手

#### NPO法人や民間事業者との連携による

##### 歴史的建造物を活かした取り組み

1. 民間活力による空き家等の利用促進
  - ◆ I T企業などの事務所や芸術家の活動拠点など様々な分野での利用促進
2. 松江文化を満喫できる商品の開発や情報発信
  - ◆ 着物・飲食（日本酒・そば・抹茶・和菓子等）業者と連携した「おもてなし 城下町まち歩きコース」づくりなど

#### 松江歴史館等を集積される歴史資料のデータを公開し

##### 民間の新しいコンテンツ開発の支援を行う

- ◆ まち歩きに活用できるバーチャル映像の開発や古地図を活用した歴史的町割探訪など

## 1

### ◆ <sup>ふまいこう</sup>不昧公・茶の湯スタジオの形成

2018年（平成30年）の<sup>ふまいこう</sup>不昧公200年祭開催に向け、松江の「茶の湯文化」を国内外に情報発信し、観光誘客を推進するため、春と秋に茶会を開催し、不昧公が作り上げた独自の世界を「<sup>ふまいこう</sup>不昧公・茶の湯スタジオ」として形成します。



#### 【春】<sup>ほりばた</sup>春のお堀端茶席

春の季節が変わり始める頃、水都松江でぶらりぶらりと歩きながら、

お茶を楽しむ茶席。伝統的な造りのお寺や、特設した堀川の川床茶席など、様々なシチュエーションで、お茶を嗜んでいる人から初めての人まで「茶の湯文化」を楽しめます。

#### 【秋】松江城大茶会

京都、金沢と並ぶ日本三大茶会の1つで、今年で33回目を迎える秋の松江の風物詩となっている茶会。「国宝松江城二の丸」をメイン会場に、<sup>あかやまさどうかいかん</sup>明々庵のある「赤山茶道会館」や「松江歴史館」などでお点前が披露され、1日で複数の流派を堪能できます。



## 2

### ◆「松江おちらとあるき」(まちあるき観光)

「松江おちらとあるき」は、(一社)松江観光協会が実施するまちあるきで、「おちらと」とは出雲弁で「ゆっくりと」を意味します。名所旧跡をただ見るだけではなく、古くからある商店、路地裏、地方独特の瓦屋根、そこに住む人々を見守ってきた橋など、住民の暮らしぶりや歴史が感じられる「まち」そのものを地元ガイドの案内のもと「おちらと」歩きます。

#### (一社)松江観光協会

定時コース：「松江満足物語」「松江城下の今昔散歩」

期間限定定時コース：「感動！夕日鑑賞コース」

特別コース：「美保神社と青石<sup>みほ</sup>畳<sup>あおいしだたみ</sup>通り」「揖夜<sup>いや</sup>神社と黄泉比良坂<sup>よもつひらさか</sup>」 など

#### NPO法人松江ツーリズム研究会

怪談ゆかりの地を訪ねる「松江ゴーストツアー」

着物姿のちどり娘が案内する「松江城下めぐり」

縁結び娘が同乗する「タクシーで巡る縁結びスポット」 など

#### 出雲国まほろばガイドの会

風土記の丘を中心に古代出雲文化の遺産と遺跡を案内



## 3

### ◆水の都プロジェクト

市域中央部には汽水湖の宍道湖と中海を湛え、その両湖を結ぶ大橋川が松江市街地の中央を東西に流れています。湖と川が見せる夕景をはじめとした四季折々の風景が見られる水辺は、住む人訪れる人を魅了する松江の名物スポットになっています。この松江固有の水辺環境を利活用し、新たな価値創造を官民連携して取り組んでいます。



#### ◆水辺・水面空間の新たな舞台づくり

宍道湖面に浮かぶ「嫁ヶ島<sup>よめがしま</sup>」への渡し船運行や水辺での飲食機会提供など、宍道湖の夕日の眺望に松江独特の文化や景観を加えた新たなシチュエーションを創造します。



#### ◆風土記の時代から残る渡し船などでの水上観光

1300年以上の歴史がある大橋川の渡し船「矢田<sup>やた</sup>の渡し」などの船を宍道湖周辺の水上観光や水運に活用し、まち歩きや景色観賞の視点を水面に広がめます。



#### ◆特産大和しじみ<sup>やまと</sup>など水産資源の付加価値化

宍道湖特産「大和しじみ<sup>やまと</sup>」などの普及と付加価値化のために体験観光や新商品開発に取り組めます。